

2015/12/25 (Fri.) 第96号

日本医師連盟ニュース

日本医師連盟ニュース
 発行所
 日本医師連盟
 東京都文京区本駒込2-28-16
 〒113-8621
 TEL: 03-3947-7815
 FAX: 03-3947-2662
 E-mail: info01@nichiren.jp

http://www.nichiiren.jp/

定価 1年400円 (但し日医連負担金を含む)



(左から) 横倉義武委員長、安倍晋三内閣総理大臣、今村聡副委員長 (12月8日 総理大臣官邸)

横倉義武日医連委員長は、十二月二日塩崎恭久厚生労働大臣、十二月三日菅義偉内閣官房長官、十二月八日には安倍晋三内閣総理大臣、麻生太郎副総

横倉委員長、安倍総理、菅官房長官、麻生財務相、塩崎厚労相と相次ぎ面談
診療報酬プラス改定への理解を求めろ!



(左から) 横倉義武委員長、菅義偉内閣官房長官 (12月3日 総理大臣官邸)



(左から) 麻生太郎副総理・財務大臣、横倉義武委員長 (12月8日 財務省)



(左から) 横倉義武委員長、塩崎恭久厚生労働大臣 (12月2日 厚生労働省)

平成28年度診療報酬改定

本体 + 0.49%、医科 + 0.56%

今回の診療報酬改定では、財務省は、財政再建と社会保障関係予算抑制の観点から、ネットマイナス改定、さらには本体部分についても大幅なマイナス改定を既定路線としていた。

日医連(日医)では横倉義武委員長はじめ全役員が主力で、十一月〜十二月中旬にかけて診療報酬プラス改定へ向けた強力な働きかけを安倍総理、麻生財務大臣、菅内閣官房長官、塩崎厚生労働大臣等関係閣僚や自民・公明幹部をはじめ多くの国会議員に数多く行ってきた。

さらには、自民党の議員連盟「国民医療を守る議員の会」や「医療政策研究会」等の政策勉強会(関連記事二面に掲載)を通じて度重なる働きかけを行った。

日医連では陳情活動に際し特に次の二点を中心に説明や陳情を行いプラス改定への理解を求めた。

①「医療経済実態調査の結果、医療機関の経営状況は依然として厳しいままで、マイナス改定となれば再び、地域医療の崩壊を招くこととなる」、②「安倍内閣の経済政策のなかで、民間企業の賃上げが行われている観点からも医療従事者の処遇改善を行うためには、医療機関の経営安定が必須であり、適正な診療報酬の確保が必要である。医療従事者の処遇改善が行われれば、地域経済へも大きく波及する効果があり診療報酬の引き上げは地域経済へ好影響をもたらす効果もある」

また、都道府県医師連盟や郡市区医師連盟を通じて地元選出議員への陳情も行った。日医連、都道府県、郡市区の各医師連盟が一体となった陳情活動を展開したことから、多くの関係議員の理解を得て、最終的に今回の『本体プラス改定』にむずびついたものである。しかしながら、薬価改定財源が本体部分に充当される、いわゆるネットプラス改定とならなかったことは極めて残念な結果であった。日医連(日医)としては、薬価改定財源の本体への充当について、今後改善が行われるよう引き続き、次回(平成三十年)度診療報酬改定を見据え、粘り強く訴えていく考えである。

平成二十八年度予算編成の焦点であった診療報酬改定について、十二月二十一日塩崎恭久厚生労働大臣と麻生太郎副総理・財務大臣が折衝を行い、本体改定率プラス〇・四九% (詳細は別表に記載) とすることを決定した。

平成28年度診療報酬改定について (別表)

		改定率
診療報酬本体	医科	+0.56
	歯科	+0.61
	調剤	+0.17
	薬価・材料	▲1.33

診療報酬プラス改定に向けた陳情活動を展開！ 「国民医療を守る議員の会」(自民党議連) 安倍総理に決議を提出！



「国民医療を守る議員の会」で挨拶する横倉義武委員長（中央）



「国民医療を守る議員の会」(12月9日)

議員連盟の主な役員	
特別顧問	伊吹文明衆議院議員
会長	高村正彦衆議院議員
会長代行	鴨下一郎衆議院議員
会長代理	上川陽子衆議院議員
幹事長	武見敬三参議院議員
幹事長代行	菅原一秀衆議院議員
事務局長	加藤勝信衆議院議員
幹事	羽生田俊参議院議員

十二月九日午前、国会内において、社会保障政策について議論する自民党国会議員による議員連盟「国民医療を守る議員の会」(会長＝高村正彦自民党副

総裁)の総会が開催された。総会では高村会長の挨拶に続き、横倉義武日医連委員長が、出席した二百五十名(代理含む)を超える国会議員を前に次のように挨拶した。

「財政審の提言を受け、社会保障費の伸びを五千億円程度とする主張があるが、現在、シエネリック医薬品の使用適正化や健康日本会議での取り組み等から数年後には医療費の伸びの抑制も期待できる。

全国には三百万人以上の医療従事者がおり、特に地方において医療分野は他の産業に比べ雇

用誘発効果が高いとされている。民間企業では賃上げが行われているが、医療分野では、医療機関の経営が安定してこそ、医療従事者の給与を引き上げることができ。今春の民間企業の労使交渉における賃上げ率二・二五%並みに医療従事者の給与を引き上げるためには約千二百億円(国庫負担ベース)が必要である。地方経済の活性化のためにも、医療従事者の賃上げは必須であり、必要な財源の手当てについて理解をお願いしたい。

また、急性期や回復期などの

機能にかかわらず、地域や患者のニーズに添えている医療機関の経営の安定なくして、国民に適切な医療を提供することはできないと考えている。そのためには過不足のない診療報酬の確保が重要である。したがって平成二十八年度改定はプラス改定とすべきである。また、税制については、消費税一〇%引き上げ時に医療に係る消費税問題の抜本的解決が実現するよう要望する。

国民皆保険を持続可能なものとするために、先生方のお力添えを引き続きお願いしたい」

その後は、出席した国会議員との意見交換が行われ、最後に診療報酬改定および税制改正に関する決議文が全会一致で採択された。

決議文は、平成二十八年度診療報酬改定・税制改正に当たり、①「薬価改定財源を診療報酬本体に充てたネットプラス改定」、②「医療従事者の処遇改善」、③「かかりつけ医の評価について」、④「機能分化による効率的な医療提供体制の推進」、⑤「救急、小児・周産期、精神医療、認知症対策等の充実」、⑥「控除対象外消費税問題の抜本的解決」の六項目からなる決議。なお採択された決議文は、十日午後、高村会長ら議長連役員から安倍晋三内閣総理大臣に手渡された。

当日の総会には日医連(日医)役員はじめ、全国の都道府県医師連盟役員も出席し地元選出議員へ活発な働きかけが行われた。

機能にかかわらず、地域や患者のニーズに添えている医療機関の経営の安定なくして、国民に適切な医療を提供することはできないと考えている。そのためには過不足のない診療報酬の確保が重要である。したがって平成二十八年度改定はプラス改定とすべきである。また、税制については、消費税一〇%引き上げ時に医療に係る消費税問題の抜本的解決が実現するよう要望する。

国民皆保険を持続可能なものとするために、先生方のお力添えを引き続きお願いしたい」

その後は、出席した国会議員との意見交換が行われ、最後に診療報酬改定および税制改正に関する決議文が全会一致で採択された。

決議文は、平成二十八年度診療報酬改定・税制改正に当たり、①「薬価改定財源を診療報酬本体に充てたネットプラス改定」、②「医療従事者の処遇改善」、③「かかりつけ医の評価について」、④「機能分化による効率的な医療提供体制の推進」、⑤「救急、小児・周産期、精神医療、認知症対策等の充実」、⑥「控除対象外消費税問題の抜本的解決」の六項目からなる決議。なお採択された決議文は、十日午後、高村会長ら議長連役員から安倍晋三内閣総理大臣に手渡された。

当日の総会には日医連(日医)役員はじめ、全国の都道府県医師連盟役員も出席し地元選出議員へ活発な働きかけが行われた。

第14回医療政策研究会開催

診療報酬改定に向け議論



医療政策研究会で挨拶する横倉義武委員長

決議文の要旨

「診療報酬改定率はネットプラスとする」と、「医療機関等の控除対象外消費税問題は抜本的解決を図ること」等五項目の決議。

酬改定にどのような議論があったかについて、横倉義武日医連委員長から、「年末の予算編成・税制改正が控えているなか、中医学協で医療経済実態調査(前回改定(平成二十六年)の結果が報告された。この結果を踏まえ、今回の改定はどうあるべきかの議論がなされていると聞いている。

地域医療の実状において大きな課題のひとつとして、地方の過疎地域における診療所の激減がある。とくに人口五万人以下の都市で顕著であり、これは診療所の後継者が医師になっていないにもかかわらず、地域に戻ってこないことによるものである。地域医療を支えている医師を診療報酬面だけでなく、生涯研修等についてもサポートできる体制の構築を進めていくことが必要であると考えている。

国家財政が厳しいなか

十一月二十四日、日本医師連盟と自民党の中堅・若手議員との医療政策に関する勉強会「医療政策研究会」(会長＝武見敬三参議院議員)が開催された。

当日は代理を含む六十六名の国会議員が出席し、日医連からは役員十三名と東京都医師政治連盟の役員が出席した。

冒頭、武見会長から次のような挨拶があった。

「本年十二月には、診療報酬改定が行われる、また再来年四月の消費税引き上げに際しての、医療機関における控除対象外消費税問題の抜本的解決についても大きな課題である。この両者は財源の確保等から、複雑に関係し合っている問題である。両者の関係をどのように整理し、喫緊の課題である診療報酬

改定にどのような議論があったかについて、横倉義武日医連委員長から、「年末の予算編成・税制改正が控えているなか、中医学協で医療経済実態調査(前回改定(平成二十六年)の結果が報告された。この結果を踏まえ、今回の改定はどうあるべきかの議論がなされていると聞いている。

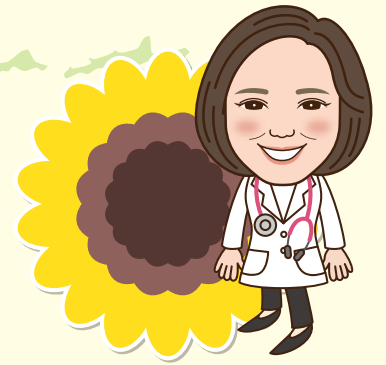
地域医療の実状において大きな課題のひとつとして、地方の過疎地域における診療所の激減がある。とくに人口五万人以下の都市で顕著であり、これは診療所の後継者が医師になっていないにもかかわらず、地域に戻ってこないことによるものである。地域医療を支えている医師を診療報酬面だけでなく、生涯研修等についてもサポートできる体制の構築を進めていくことが必要であると考えている。

国家財政が厳しいなか

決議文の申し入れ (左から) 羽生田俊参議院議員、武見敬三参議院議員、菅義偉内閣官房長官、吉川貴盛衆議院議員 (12月4日 総理大臣官邸)



自見はなこ参与 全国訪問中



(紙面の都合ですべての日程をご紹介できませんことをお許し下さい)

12月12日 熊本県へ

羽田空港発 8:45 の飛行機で熊本空港へ。
熊本県医師連盟と熊本県小児科医会のご協力で、小児科のクリニックを訪問。全国でも数少ない「小児の訪問呼吸リハビリとデイケア」を行っているクリニックにもお伺いしました。
夜は熊本市内で「熊本県医師連盟執行委員会」「熊本県医師会叙勲・受賞・表彰・慶祝者祝賀会」に出席しご挨拶させていただきました。
夜の飛行機で帰京。



12月18日 長野県へ

7:00 新宿駅発の特急スーパーあずさで長野県へ。
1日、長野県内の医療機関、地区医師会を訪問。
最後は上田市医師会館にお伺いし、上田駅から新幹線で帰京。



12月17日 神奈川県 医療機関訪問

朝の飛行機で福岡～羽田へ。羽田空港から川崎市へ。
川崎市、横浜市内の医療機関を訪問。
横浜市医師会の会議でご挨拶。
夜は神奈川県医師会の忘年会に出席させていただきました。



12月21日 東京都医師会忘年会

午後から日医会館で日程の打ち合わせ。
夜は東京都医師会忘年会でご挨拶させていただきました。



12月

12月13日 富山県医師連盟 「医療政策セミナー」で講演

日帰りで富山県へ。
14時から富山県医師会館で開催された「医療政策セミナー」で講演。
地元の野上浩太郎参議院議員（自民党）にもお会いしました。
セミナー終了後は、氷見市の医療機関を訪問。
氷見市や近隣の地域医療の現状や課題をお伺いしました。



12月24・25日 秋田県 医療機関訪問&集会



メリークリスマス

1泊2日の日程で秋田県内の医療機関を訪問。
24日の夜には「自見はなこを励ます会」を開催していただきました。
クリスマスイブにもかかわらず、大変ありがとうございました。

12月16日 福岡市勤務医会

福岡市勤務医会の会場で講演。
懇親会では先生方と懇談をさせていただきました。

